



『盈たして 進む』

教育週間ありがとうございました

6月20日（月）から24日（金）まで、『盈進っ子の心を見つめる教育週間』でした。感染症対策により、予定していたPTA球技大会は中止となりましたが、その他の取組は実施することができました。

20日（月）の校長講話では、『思いやり』をテーマにしました。「いつも仲よくしている間柄でも、自分が気づかないうちに相手を傷つけていることばを言ったり、行動をしたりしているかもしれません。普段から相手を思いやる気持ちで接しながら、ふわふわ言葉を使えば嫌な思いをさせることはありませんね。もし言ってしまったら、素直にごめんなさいと謝りましょう。」と話しました。笑顔あふれる楽しい学校が一番です。

21日（火）は、今年度初めての授業参観でした。たくさんの保護者だけでなく、祖父母の方や地域の方々も来てくださいました。「命の大切さ」「思いやり」「やさしさ」などに関する道徳科の授業でした。照れくさそうにしながらも、自分のこれまでの行動を振り返りながら一生懸命に考えて発表する子ども達の姿が印象的でした。



22日（水）は、武藤蘭子さんが1年生へ読み聞かせをしてくださいました。『おまたせクッキー』という絵本でした。お母さんがおやつに焼いてくれたクッキーを食べようとすると次から次へとお客さんが来て自分の食べる分が減っていき、とうとう自分の分が1個になってしまいます。そして、さらにピンポン！さあ、どうする？というお話です。子ども達って優しいですね。武藤さんの話術に私もすっかり聞き入ってしまいました。

23日（木）は、ふれあい音楽集会でした。敬老会や老人会などで活動されている「津軽三味線椿」の皆さんが、全校児童の前で津軽三味線の演奏を披露してくださいました。披露していただいた曲は「十三の砂山」「津軽タント節」「津軽じょんがら節合奏」の3曲。演奏前に、コロナ禍の中、2年間活動しておらず練習不足と話されていましたが、息の合った5人の見事な演奏に、子供たちは魅了されていました。

三味線の演奏後は、お礼の気持ちを込めて、児童全員で鼓笛の演奏と「虹」を合唱し、最後に、参観されていた保護者も含めて全員で「ふるさと」を歌いました。

6年生の梶山楓斗くんが会の終わりにお礼のあいさつで述べた「地域の人たちと一緒に交流できたことがうれしかった。」という言葉通り、地域の皆様方とともに音楽を通して、とても心地よいひとときを過ごすことができました。

